

鋼床版舗装に改質グー

施工面積延べ1.8万²m超

材料調達、製造を容易に

大林道路

鋼床版の耐久性向上を狙い、大林道路が開発した「改質グー」が08年に適用して以来、施工面積が延べ1.8万平方メートルを超えた。改質グーは、曲げ疲労抵抗性を10倍に高めることで、材料調達と製造を容易にしている。同社では、同グーを舗装表面から40センチ下にある「基層」の代替として新設道路や大規模更新を迎える既設道路に提案する方針だ。

グーは、粗骨材と天然

て、主に鋼床版の基層に使用されている。



施工の様子

は、粗骨材と天然グーを、クック車と呼ばれる専用の機械で運搬・攪拌することで流し込み施工を可能にしている。水を通さない不透水性とたわみの発生がしにくい舗装材として、一方で、従来のグーは、特殊天然グー（トリニッド）や硬質で製造所が限られるストラス20〜40を使用しているため、調達が困難という。このため、同社では調達が容易な改質グーを開発した。開発したものは、TLAやストラス20〜40の代わりに、調達が容易な改質グーを特殊添



開通間もない九島大橋

加剤を混合することで、プラントでの製造を可能にしているほか、混合する従来のグーは、荷重に対して変形が大きい。耐流動性を

る際の温度を通常よりも20度低い、約220度で混合しているため、臭気発生を抑えた環境配慮型の舗装材となっている。また、

を2倍、ひび割れのしにくさを示す曲げ疲労抵抗性を10倍にまで高めているなど、高耐久性を確保している。同社によると、08年の初適用から約8年間で施工面積は1万8532平方メートルにのぼるとい

ニアリング部としている。直近では、今年4月3日に開通したばかりの「九島大橋」（愛媛県宇和島市発注）にも適用している。これまで船舶でしか往來できなかった九島と宇和島市を結ぶ新たな交通インフラとして整備された同橋りょうには、同社開発の改質グー

スアスファルトを基層部分に3380平方メートル使用している。今後は、材料コストの低下などを図りながら、新設道路や既設道路を対象とした鋼床版の改良工事などに適用拡大を図る考え。